

2024 8/13・27合併号

No.2216・2217

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



相鉄いずみ野線ゆめが丘駅(横浜市泉区)前の大規模複合商業施設「ゆめが丘ソラトス」が7月25日に開業。相鉄アーバンクリエイツと相鉄ビルマネジメントの左藤誠社長らがテープカットした(相鉄グループ提供)※内覧会の様子は12頁



政経かながわ

2024 8/13・27合併号
No.2216・2217

contents

視点点描	3
産み育てたい社会へ	
講演録	4
武将たちの決断～歴史から学ぶ七つの教訓 歴史作家・伊東 潤	
特集 天皇と戦争	8
詠み続けた平和への思い 傷癒やす「象徴」	
開業直前のゆめが丘ソラトスを見学	12
政治双眼鏡	13
閉塞状況の立民代表選 新世代台頭が鍵	
経済双眼鏡	14
日本も来るかEV時代 充電設備せめてロンドン並みに	
グリーン&ブルー	15
太平洋クロマグロの漁獲枠拡大で合意 サヘル・ローズ×リアルワールド	
民主主義はどこへ？	16
蝶花楼桃花のNEWS箸休め	17
凍りついた地下鉄車内	
暮らし2024	18
1日3つまみの減塩を あの手この手の工夫で 薄味で健康に	
本郷和人 歴史の舞台をゆく	20
伊達家と浅野家の因縁	
かながわTODAY	22
7月の主な経済ニュース	

事務局だより

◇2024年8月定例講演会
8月22日(木) 午後1時30分～3時
メルヴェーユ (みなとみらい21)
講師：日体大理事長・松浪 健四郎氏
演題：「中東の文化とイスラム教の人々」

◇2024年9月定例講演会
9月30日(月) 午後1時30分～3時
崎陽軒本店 (横浜市西区)
講師：崎陽軒代表取締役社長・野並 晃氏

【お知らせ】神奈川政経懇話会の2023年度決算総会後の理事会が書面決議で行われ、須藤浩之理事長、原田一之専務理事、常務理事の野並直文氏、林英一氏、藤木幸夫氏、三澤憲一氏、瀧村誠が6月21日付で再任しました。
事務局は、8月14、15の両日はお休みさせていただきます。

視点 点描



産み育てたい社会へ

今日から夏休み。そんな日の新聞紙面はプールではしゃぐ子どもたちの姿が定番だった。しかし今年の神奈川新聞紙面で紹介したのは「夏休み中 児童に昼食」。

共働き世帯が増える中、長期休暇を学童保育などで過ごす小学生は少なくない。むしろ給食のない休業が始まった。おかかご飯にチキ

暇期間は、親が離職を迫られる「小1の壁」として対策が求められている。多くの小学校で夏休み最初の平日となった7月22日、留守家庭の児童を預かる横浜市立小学校の預かり拠点で、昼食提供のモデル事業が始まった。おかかご飯にチキ

ンステーキやマカロニサラダといった6品目が並ぶ弁当が1食400円で注文できる。市内約570カ所の預かり拠点を展開し、市は対象児童4万6千人超のうち、1日に約7割の利用を見込んでいる。市は配送料などを負担し、約2億3900万円の事業費を投じた。こども家庭庁が昨年5月に行った調査では、自治体が状況を把握している学童保育のうち、昼食を提供しているのは約23%。弁当を作る親の負担や食中毒の危険といった課題があり、親からは改善を求める声が上がっていた。同庁が自治体に対し、地域の実情に応じて学童保育で食事提供の検討を求める通知を出したこともあり、今年の夏休みは昼食を提供する自治体が増えたようだ。2023年の人口動態統計(概数)によると、女性1人が生涯に産む子どもの推定人数「合計特殊出生率」は1・20となり、過去最低を更新した。未婚や晩婚化に加え、経済的な不安定さや、仕事と子育ての両立の難しさなど、さまざまな要因が絡み合っているとみられる。横浜市では、出勤時間が早い保護者が安心して子どもを預けられるよう、学校の開門時間を早めて子どもたちを見守る「朝の居場所づくり」事業も始まった。子育て世代の不安や負担を一つでも減らし、産み育てたいと思える社会に変えていくことが急務だ。(神奈川新聞社地域報道統括部長 米本 良子)